

開設年度		開講部局	
2010		共通教育	
科目名			
環境教育・ESD入門Ⅳ			
英語科目名			
前後期		履修期	開講区分
後期		4期	毎週
科目形態	単位数	大分類(科目)	中分類(分野)
講義	2	教養科目	分野3
受講学部学科			
全			
担当教員		担当教員所属	
萩原 豪		稲盛アカデミー	
連絡先(TEL)		連絡先(MAIL)	
099-285-3757		k6219828@kadai.jp	
オフィスアワー(授業時間外の対応)			
【オフィスアワー】毎週木曜日3時限目 オフィスアワーでの対応については、できるだけ事前にメールでアポイントをとるようにしてください(ダブルブッキングを避けるため)。			
共同担当教員			
キーワード1		キーワード2	
視野・判断力・探求能力		コミュニケーション能力と相互理解	
授業概要(目的・内容・方法)			
<p>本講義は演習形式で行います。前期の「環境教育・ESD入門?」で行った研究活動の内容をさらに発展させていきます。環境問題に関する知識だけではなく、「持続可能な社会」を作るための実践を重視するため、受講生自らが行動をしていてもらいます。</p> <p>具体的には各WGで提案した企画書を、実現させていくために実践活動を行います。いずれのWGにおいても、提案した企画を実施することは並大抵のことではありません。本講義の履修者だけではなく、学内外から協力者を得る必要があると思います。そのためWGでは第三者に分かってもらえる、また協働してもらえるような形の企画書を作成することが求められています。年度末にWGの活動および成果の最終報告会を行います。</p>			
学習目標			
<p>本講義では環境教育やESDの国内外の動向を理解するとともに、環境問題について多角的な視点から考察していく機会を共有します。その中で受講生が自ら行動し、自分の眼と耳と足で、問題を発見・考察・分析・整理・発表するという社会人としての基礎技術を習得することを最終目標としています。</p>			
授業計画(15回に分け、回数、授業内容、自学自習等)			
<p>第1回目の授業はガイダンスを行い、各WGの活動目標と今後の活動スケジュールについて明確化してもらいます。その後は以下の流れで進めていく予定です。12月の週末に1泊2日の研究合宿(石油備蓄基地・原子力発電所・蘭牟田池等の見学)を行う予定です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンス ・WGの研究活動の報告および実践に対する企画書の検討作業 ・中間報告 ・実践活動 ・最終報告(プレゼンテーション) ・報告書作成 			
受講要件		成績の評価基準	
本講義のテーマに関心を持ち、自らが「持続可能な社会」に対する活動を実践したいと思っていること。		授業態度30%、課題等提出物30%、グループワーク40%で総合的に判断します。出席が総授業数の3分の2未満の場合、または最終レポートの提出がない場合は評価対象外とします。	

教科書	参考書
<p>教科書は使用しません。必要な資料は毎回の授業で配布します。</p> <p>課題作成のために必要な書籍は別に指定します。</p>	<p>阿部治・野田研一監修『あなたの暮らしが世界を変える 持続可能な未来がわかる絵本』山と溪谷社、2007年。</p> <p>今村光章編『持続可能性に向けての環境教育』昭和堂2005年。</p> <p>日本環境教育フォーラム編著『日本型環境教育の提案』小学館、2000年。</p>
その他	
<p>前年度の環境教育・ESD入門IあるいはIIの単位取得者のみ、また、今年度の環境教育・ESD入門IIIの履修者のみ履修を認めます。</p>	